Letter to the Editor

第153回関西談話会開催報告

Report of the 153rd Kansai-Area Colloquium

黒野 定^{1,3,*}・川畑慎一郎^{2,4}

Sadamu KURONO and Shin-ichirou KAWABATA

¹ 関西談話会世話人代表 *Chair of the Kansai-Area Colloquium*² 関西談話会世話人 *Secretary General of the Kansai-Area Colloquium*³ 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻疾患分子情報解析学（和光純薬工業）共同研究講座 *Laboratory of Molecular Signature Analysis, Division of Health Sciences, Osaka University Graduate School of Medicine, OSAKA, JAPAN*⁴ 株式会社島津製作所田中耕一記念質量分析研究所 *Koichi Tanaka Laboratory of Advanced Science and Technology, Shimadzu Corporation, KYOTO, JAPAN*

編集長、ならびに会員諸氏

2016年1月30日（土）、京都・嵐山 ご清遊の宿 らんざん におきまして、第153回関西談話会を開催しましたので報告いたします。今回の主題は「和田芳直先生 最終講義」といたしまして、大阪府立母子保健総合医療センター研究所長であり、現日本質量分析学会会長であります和田芳直先生が2016年3月末をもってご退職されますことから、関西談話会としてご退職記念の最終講義を公開し、永年のご研究の一端をお話いただきますとともに、先生ゆかりの方々にもご講演いただく会といたしました。当日は総勢67名の方が全国からお越しになられ、会場からあふれんばかりのたいへん盛況な会となりました。講演プログラムに関しましてはより多くの和田先生ゆかりの方々よりお話をいただきましたかったのですが、時間の制約上3名の演者の方々よりご講演をいただきました。以下に講演プログラムを記載します。

講演プログラム（敬称略）

- 1) 13:35~14:10 上野民夫（日本質量分析学会名誉会員）
「私の質量分析体験談—昆虫フェロモンの構造決定に関連して」
（座長：黒野 定）
- 2) 14:10~14:45 交久瀬五雄（日本質量分析学会名誉会員）
「和田先生と松田グループの思い出」
（座長：田中耕一（島津製作所））
- 3) 15:05~15:50 田尻道子（大阪府立母子保健総合医療センター研究所）
「糖ペプチドのイオンモビリティ質量分析法」
（座長：川畑慎一郎（島津製作所））
- 4) 15:50~16:50 和田芳直（大阪府立母子保健総合医療センター研究所）
「まだ、ものたりないMS」
（座長：荒川隆一（関西大学））

上野先生のご講演では、質量分析との出会いから最新の昆虫フェロモン研究に至るまで、先生の質量分析と歩んでこられた歴史を交えながらご紹介いただきました。ゴキブリ類の行動やフェロモン採取などにおける写真や動画はなかなかの迫力（！）でした。交久瀬先生は和田先生と大学時代をともに過ごしになられ、松田先生そして和田先生との貴重なエ

* Correspondence to: Sadamu KURONO, BMS Center, Bio Medical System Development Department, Research & Development Operations I, Laboratory and Specialty Chemicals Division, Wako Pure Chemical Industries, Ltd., 1-3-5 Higashikagaya, Suminoe, Osaka 559-0012, JAPAN, e-mail: kurono.sadamu@wako-chem.co.jp

黒野 定, 和光純薬工業株式会社試薬化成品事業部開発第一本部BMS開発部BMSセンター, 〒559-0012 大阪市住之江区東加賀屋1-3-5

写真1. 上野先生ご講演

写真2. 交久瀬先生ご講演

写真3. 田尻先生ご講演

写真4. 和田先生ご講演

ピソードや、和田先生のご貢献を称えられますとともに、質量分析に携わるわれわれへ多くの薫陶をいただきました。

田尻先生は和田先生のもとで長年ともに研究を行ってこられ、和田先生との出会いからイオンモビリティを用いた糖ペプチドの最新研究までたいへん興味深いお話をいただき、普段あまり存じ上げない和田先生の素顔も垣間見ることができご講演でした。そして、最終演者の和田先生より「まだ、ものたりない MS」というタイトルで最終講義を頂戴いたしました。和田先生は大阪大学医学部をご卒業後内科医師等を経られたのち、1981年に大阪府立母子保健総合医療センターにご入所され、1991年に同研究所代謝部門部長、1998年から同研究所長を務めておられます。

当初和田先生から最終講義のタイトルを頂戴しましたときには上述タイトルから“まだ”の2文字がなく「ものたりない MS」(!)というタイトルでした。このタイトルを拝受しました際一瞬目が引き締まる思いがいたしました。数日後先生より「タイトルですが、“まだ、ものたりない MS” にしてください」とのご連絡を受けまして少々安堵しましたと同時に、改めて先生の気さくなお人柄に魅力を感じました。先生は世界で初めて質量分析による構造変異タンパク質の一次構造解析を報告され、大阪府立母子保健総合医療センターでは世界初の質量分析による遺伝子の一塩基置換検出法の開発、さらに、質量分析による糖鎖修飾異常疾患解析を報告なさるなど、その研究成果や、社会、医療に対する貢献は数え切れません。これらの「分子病の質量分析による診断」というテーマをライフワークに、日本質量分析学会、日本プロテオーム学会、IMSC、AOMSC、ヒトプロテオーム機構 (HUPO) Human Disease Glycomics/Proteome Initiative (HGPI) 等々国内外のさまざまな学会、機構を指揮なされました。本最終講義の冒頭先生は、大阪大学時代、松田先生、松尾先生、交久瀬先生らとともに世界有数の質量分析装置開発研究室にて研究の日々を過ごされましたなか、和田先生の主なご研究はタンパク質の構造解析研究であられたことから、質量分析開発者系統図を指し示されながら“自身の立ち位置はどこになるのか?”とご謙遜なさっておられました。1時間とたいへん短いご講演時間ではありましたが、質量分析にかかわる先人たちの創意工夫の数々から説き起こされ、先生の折々の研究テーマとのかかわりから多面的に質量分析技術を総覧されました。先生と同世代の方々にとっては「来し方」の俯瞰的かつ緻密なレビューであり、一方で若い世代にとっては、先生はじめ先輩諸兄が技術開発もさることながらいかに厳しい意識で研究に取り組んでこられたか、その一端を垣間見せていただけた

写真5. 花束贈呈

写真6. 和田先生を囲んでの集合写真

ように思います。ご講演の締めくくりには、多彩な発展を遂げながらも“まだものたりない”数々の課題についてのご所見を示されました。後世のわれわれに対しこれからの質量分析をさらに発展させよ！と希望と期待を込められた、心に残るご講義であったことここにご報告いたします。

最 後 に

お忙しいなか当会にご参集いただきました方々、そして、演者の先生方および和田先生に対し、世話人を代表し心より御礼を申し上げます。

和田先生の質量分析分野に果たされました数々の多大なるご功績をお称えいたしますとともに、先生のこれからのマスマス（正しい質量分析用語は「エムエスエムエス」です！）のご活躍とご健勝を祈念いたし、永年のご苦勞に対します深甚なる感謝と敬意を表します。

なお、これからも質量分析界の発展のため何卒お力をお貸し願います。まだまだお頼りいたしております。